

平成19年 10月2日	農作物病虫害発生予報 10月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
----------------	---------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	7
III	病虫害・農薬情報	
	農薬メモ ー 農薬危害防止運動強化月間	7
	病虫害メモ ー 山口県で侵入を警戒している病害 ～ウリ科野菜に発生する黄化えそ病～	8
IV	参考(予報の見方、気象予報、10月のテレホンサービスの内容)	9

I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	やや少	やや少	少
	ミカンハダニ	多	多	多
果樹全般	カメムシ類	平年並	平年並	少
ハクサイ	軟腐病	やや多	やや多	多
	白斑病	やや多	やや多	多
	べと病	やや少	やや少	前年並
	黒斑病	平年並	平年並	前年並
アブラナ科野菜	コナガ	やや多	やや多	多
	オオタバコガ	平年並	平年並	多
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	多

作物	担当者
普通作	野崎(病害) 中川浩二(虫害)
果 樹	藤村(病害) 殿河内(虫害)
野 菜	岡田(病害) 畑中(虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-4071

II 予報

【主要病害虫】

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	台風の襲来前

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は13.6%（平年25.9%）、発病果率は1.6%（平年3.6%）、発病度0.5（平年1.2）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（±）。

(3) 防除対策

<防除判断>

すでに発病しているほ場やあまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の襲来前に薬剤防除を実施する。事前に防除ができなかった場合には、台風通過後、なるべく早く防除を行う。

なお、温州みかんでも発生の多いほ場があるので注意する。

<耕種的防除等>

ア 秋に形成された病斑（潜伏病斑を含む）は翌年の有力な伝染源となるので、本病の発生しやすい夏秋梢はできるだけ除去する。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、枝葉や果実に傷が付くのを防ぐ。

<防除のポイント>

ア 温州みかんなどかいよう病に比較的強い品種でも多発することがある。特に発病しやすい品種との混植園や近くに発生園がある場合には注意する。

イ コサイドDFやZボルドーなどの無機銅水和剤を散布する場合は、薬害を防ぐため炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用する。

2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	防除判断参照

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率40.9%（平年23.6%）、寄生葉率9.6%（平年2.8%）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

防除の目安は、寄生葉率が30～40%以上、または雌成虫密度が1葉当たり0.5～1頭以上である。

<防除のポイント>

ア 発生量はほ場によって大きく異なる。定期的にはほ場を見回り、発生状況を確認する。

イ 葉裏までムラなくかかるよう十分な薬量を散布する。

果樹全般

1 カメムシ類 (チャハ`初カメシ、ツアカメシ、クギカメシ)

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	園地への飛来を確認した時

(2) 予報の根拠

ア 予察灯の誘殺数(県内5か所、9月1半旬～9月5半旬合計)は、126頭(平年140頭)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、10月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<防除判断>

園によって飛来の程度の差が大きいため、特に山間部や山沿いのほ場では飛来状況を確認して防除する。

ハクサイ

1 軟腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	8葉期～結球初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は11.1%(平年3.1%)、発病株率0.2%(平年0.2%)で平年に比べやや多かった(+)

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(±)

(3) 防除対策

<耕種的防除>

排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

<防除のポイント>

- ア 発生後の防除では効果が劣るので、予防散布に努める。
- イ 病原細菌は、風雨に伴う傷口や害虫による食害痕から侵入するため、台風前後の防除と害虫の防除を徹底する。

2 白斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発生初期および結球初期以降

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率22.2%（平年5.0%）、発病株率2.9%（平年2.7%）で平年に比べやや多かった（+）。
- イ 気象予報では、10月の気温は高い（-）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

- ア 連作、肥料不足等は発病を助長するため、イネ科作物との輪作や適正施肥に努める。
- イ 風媒伝染するため、被害残渣は土中に埋める。

3 ベと病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	前年並	結球開始前まで

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年15.4%）、被害株率は0%（平年6.4%）で平年に比べやや少なかった（-）。
- イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（-）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

- ア 結球開始前までの防除を徹底する。
- イ 同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤間での輪用は避ける。

4 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は11.1%(平成10.6%)、被害株率は0.7%(平成0.9%)で平成並みであった(±)。

イ 気象予報では、10月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 肥料不足で発病を助長するため、適正施肥に努める。

イ 風媒および雨媒伝染するため、被害残渣は土中に埋める。

アブラナ科野菜

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は0%(平成8.3%)、10株当たり虫数は0頭(平成0.1頭)で平成に比べやや少なかった。キャベツでの発生ほ場率は16.7%(平成11.0%)、10株当たり虫数は0.9頭(平成0.3頭)で平成に比べやや多かった(+~±)。

イ 山口市大内のフェロモントラップにおける9月の誘殺数は、平成並みであった(±)。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(±~+)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 有機リン、ピレスロイド、IGR系の薬剤はコナガに対する効果が低い場合があるので、薬剤散布後は効果を確認し、効果が十分ではない場合は他の薬剤(BT剤やスピノエース顆粒水和剤、アフーム乳剤等)に変更する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

2 オオタバコガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平成並	平成並	多	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は11.1%(平成3.0%)、寄生株率は0.2%(平成0.1%)で平成に比べやや多かった。キャベツ

での発生ほ場率は8.3%（平成6.4%）、寄生株率は0.2%（平成0.4%）で平成並みであった（±～+）。

イ 山口市大内のフェロモントラップにおける9月の誘殺数は、平成に比べやや少なかった（-）。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（±～+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、幼虫を見つけ次第、捕殺する。

<防除のポイント>

ア 生長点を被害されると被害が大きいため、特に結球前の薬剤散布を徹底する。

イ 中齢以降の幼虫は結球に食入するので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平成比	前年比	
やや多	やや多	多	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は33.3%（平成20.8%）、寄生株率は2.4%（平成0.7%）で平成に比べ多かった。キャベツでの発生ほ場率は58.3%（平成35.4%）、寄生株率は2.7%（平成3.3%）で平成に比べやや多かった（+）。

イ 県内のフェロモントラップ（5か所）における8月5半旬～9月4半旬の誘殺数は平成並～多であった（±～+）。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（±～+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 地域により発生量にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集中した葉を見つけ次第捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、葉の裏や鉄骨、パイプ等に産卵することが多いので注意し、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

<防除判断>

10月から11月にかけて若齢幼虫が発生すると考えられるので、定期的にはほ場を観察し、必要に応じて防除を実施する。

<防除のポイント>

ア 中～老齢幼虫には薬剤の効果が悪いため、若齢幼虫時の防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
アブラナ科野菜	ハイダラノメイガ(キャベツ)	多	多	多	41.7	6.1	定植時の粒剤施用もしくは定植後の新芽での発生を確認し防除する。
	ウワバ類(キャベツ)	やや多	やや多	多	50.0	9.8	
野菜全般	アブラムシ類	平年並	平年並	少	—	—	山口市の黄色水盤による9月の誘殺数は平年並みであった。
	シロイチモジヨトウ	平年並	やや少	多	—	—	山口市のフェロモントラップによる9月の誘殺数は平年に比べやや少なかった。

Ⅲ 病害虫・農薬情報

農薬メモ

農薬危害防止運動強化月間

10月1日から11月30日は農薬危害防止運動の強化月間です。農薬はラベルに記載された使用方法を守って正しく使用し、飛散等による残留や人畜に危害を与えることのないように注意しましょう。

- ①病害虫の発生に関係なく定期的に行う農薬散布は避けましょう。
- ②被害を受けた部分のせん除や害虫の捕殺、フェロモントラップによる誘引などを組み合わせた防除で、農薬の使用を最小限にしましょう。
- ③住宅地周辺や公園等での農薬の散布は、飛散等により住民への健康を損なうことがないように細心の注意を払いましょう。
- ④農薬の使用状況（生産記録）を記帳しましょう。



(農業振興課 岡本賢一)

山口県で侵入を警戒している病害 ～ウリ科野菜に発生する黄化えそ病～

キュウリ、メロン、スイカの黄化えそ病は、主にウリ科野菜に発症するウイルス病です。病徴はマンガン欠乏症や亜硝酸による障害に類似しており、図1～3のような症状を示します。感染株は生育が抑制され、減収し、症状が激しい場合は枯死します。

本病の病原ウイルス(Melon Yellow Spot Virus MYSV)はミナミキイロアザミウマによって媒介されますが、種子伝染、土壌伝染、汁液伝染は確認されていません。発生が認められた場合は、発病株を抜き取って伝染源を除去し、媒介虫を防除し、栽培終了後にハウスを蒸し込むなどの拡散防止対策が必要となります。

現在、県内で本病の発生は確認していませんが、近県では施設栽培キュウリを中心に被害が発生しており、今後県内でも発生する恐れがあります。

新たな病害虫が侵入した場合には、発生を拡大させないために新たな防除対策が必要となるため、早期発見に努めることが重要です。疑わしい症状が認められた場合は、病害虫防除所まで連絡をお願いします。



図1 キュウリの病徴
(黄化・えそ斑)

成葉ではモザイク、葉脈黄化、退緑斑、えそ斑、生育抑制などを示し、生長点付近の未展開葉には葉脈透化がみられます。果実ではほとんど症状は見られません。



図2 メロンの病徴
(発病初期の黄斑)

葉は葉脈に沿って黄化し、退緑斑点が多数生じ、その後えそ斑点となり、葉全体は黄化します。果実ではモザイクが発生し、肥大停止やネット形成異常となります。



図3 スイカの病徴
(褐色の小斑点)

葉は不鮮明なえそや、日にかざすと黄色に縁どられた褐色の小斑点が多数生じます。果実は小型化し、表面が波打ったような奇形となり、果皮の表面及び内部にえそを生じます。

注) 上記病徴写真は、熊本県、高知県の病害虫防除所HPに掲載されているものを許可を得て使用させて頂きました。

(研究員 岡田知子)

IV 参考

1 予報の見方

(1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

(注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる)

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（9月28日福岡管区気象台発表）

予 報	低い(%) 少ない	平年並(%)	高い(%) 多い
気 温	20	30	50
降 水 量	40	30	30
日照時間	30	30	40

週ごとの気温傾向

予 報	低い(%)	平年並(%)	高い(%)
1 週 目	10	20	70
2 週 目	10	30	60
3～4週目	30	40	30

3 10月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	10月の発生予報、カンキツ病害虫の防除、ナシ黒斑病の防除、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策
中旬	野菜病害虫の発生状況と防除、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策
下旬	ダイズ収穫時の紫斑病対策、野菜病害虫の発生状況と防除、ムギの種子消毒